



PATEK PHILIPPE
GENEVE

《報道資料》 ページ 1

パテック フィリップ ジュネーブ
Watches & Wonders Geneva 2025
2025年4月1日

27000M-001モデル

パテック フィリップ、まったく新しいハイパフォーマンスなムーブメントを搭載したデスククロックを再発明

マニュファクチュール パテック フィリップは、31日間のパワーリザーブを搭載し、日差±1秒の計時精度と21世紀の時計にふさわしい快適な操作性を誇るまったく新しい手巻ムーブメントによる、伝統と革新を組み合わせた永久カレンダー、ウィークリー・カレンダー・デスククロックを発表する。テクノロジーとエンジニアリングを象徴するこのシルバーの時計は、緑フランケ本七宝により魅力を高められ、洗練され、時を超越した外装によっても際立っている。

20世紀の最初の数十年は、パテック フィリップにとってきわめて創造性に溢れた時代であった。卓越性と技術革新を愛好した高名なアメリカ人コレクターたちは、最も洗練された時計を追求し購入することにより、マニュファクチュール パテック フィリップの創造性を刺激した。当社の比類のない技術・ノウハウは、1989年、キャリバー 89の創作まで《世界で最も複雑な携帯時計》(24の複雑機能)の地位を保持した著名な《グレース・ウォッチ》(1933年)を含む懐中時計に最もよく体现されている。パテック フィリップはまた、この要求の厳しい顧客たちのためにたいへん洗練されたムーブメントと外装を備えた腕時計も製作した。しかし時計製作の今ひとつの分野も、この開拓者精神の恩恵を受けている。デスククロックである。1923年、マニュファクチュール パテック フィリップは著名な自動車メーカーのオーナー、ジェームズ・ウォード・パッカードに、8日間のパワーリザーブ、イエローゴールドのアプリック (別付け装飾) と金めっきブロンズの翼を持つライオンを配したシルバー・ケースを特徴とする永久カレンダー搭載のデスククロックを納入した。1927年、表示を変更し、パーソナライズされた外装を備えた同タイプのデスククロックが、ニューヨークの銀行家ヘンリー・グレース・ジュニア (後に《グレース》ウォッチを発注) に販売された。これら2点の宝物 (《パッカード》デスククロック Inv. P-140と《グレース》デスククロック Inv. P-1270) は今日、ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアムに所蔵されている。

新しいハイパフォーマンスなムーブメント

パテック フィリップは、ジェームズ・ウォード・パッカードに納入された作品を再解釈し、デスククロックの黄金時代を今日に蘇らせる。マニュファクチュール パテック フィリップは《革新の伝統》に忠実に、31日間のパワーリザーブを搭載し、日差±1秒の計時精度と21世紀の時計にふさわしい快適な操作性を誇るまったく新しい手巻ムーブメントの開発を技術陣に指示した。7年間の開発期間の末、パテック フィリップ・シールの刻印されたレクタングラー型ムーブメント、キャリバー 86-135 PEND S IRM Q SEが完成した。部品総数は912個、そのうち約半数が永久カレンダー機構を構成している。この開発の結果、長期にわたる信頼性を向上させるための技術革新と最適化、永久カレンダー機構のエネルギー消費の削減、ユーザーの利便性の向上、誤まった操作が行われてもムーブメントを保護する機構などに関する9件の技術特許が出願された。

PATEK PHILIPPE SA GENEVE

Chemin du Pont-du-Centenaire 141 – 1228 Plan-les-Ouates

P.O. Box 2654 – CH – 1211 Geneva 2 – Switzerland

Tel. +41 22 884 20 20 – Fax +41 22 884 25 47 – www.patek.com



《精密調速装置》

31日間のパワーリザーブは、3個の香箱を直列に連結することで実現されている。日差最大±1秒を保証するため、ムーブメントは真の《精密調速装置》を搭載している。特許取得の定力機構により、テンプの振り角は、ぜんまいがいっぱいに巻き上げられてから最終日まで1か月間、確実に一定に保たれる。文字盤の中央にはパワーリザーブ表示が控え目に配置されており、ぜんまいの再巻き上げが必要になった時、これをユーザーに知らせる。

ジャンピング・セコンドとウィークリー・カレンダー

機能面では、パテック フィリップは《パッカード》デスククロックに2つの技術革新を加えた。ひとつはジャンピング・セコンド（フドロワイヤント）である。昔のレギュレーター（歩度調整用の精密時計）のように、秒針が1秒毎にジャンプする。もうひとつはウィークリー・カレンダーである。週番号は、文字盤外周の週番号の目盛りに沿って小さなフレームが移動することにより、素早く容易に読み取ることができる。《パッカード》デスククロック同様、時・分表示は12時位置のオフセンター・サブダイヤル、ムーンフェイズ表示は6時位置、そして曜日と月表示はそれぞれ9時と3時位置の小窓に表示される。日付は、6時位置のサブダイヤルに指針表示される（《パッカード》デスククロックではセンターに指針表示）。さらに昼夜（7時30分）と閏年サイクル（4時30分）の小さな表示窓が加えられている。この2つはカレンダー調整に欠かせない。ブラック転写印刷のさまざまな表示は、シルバー・オパール文字盤上にきわめて読みやすく配置されている。

メカニカル・ダッシュボード

新しい27000M-001モデルは、《パッカード》デスククロックの形状をほぼそのまま採用しているが、サイズがわずかに大きくなっている。また右から開くヒンジ付カバーの下に、アメリカン・ウォールナットの化粧板により装飾された真のメカニカル・ダッシュボードを備え、革新的なタッチを与えている。このモダンなコントロール・デスクは、すべての調整を直感的に、容易に、そして実行的に行うことができる。これはパテック フィリップのユーザー中心の哲学に完璧に合致している。

ヒンジ付カバーの下の左上隅には、ぜんまいの巻き上げと調整用の鍵をプッシュアップする、特許取得のソケットがある。この鍵は、複数の部品を組み合わせ、芸術的に仕上げられている。右上隅には、時刻調整と巻き上げ用の2つの鍵穴がある。ベゼルの6時位置下にはもうひとつ鍵穴があり、鍵を用いてストップ・セコンド機能をONにできるようになっている。これにより秒単位の精度で時刻を設定することができる。こうして31日間のパワーリザーブにより、時計は1か月間巻き上げる必要なしに連続して駆動する。

調整ボタン

文字盤の下には、5つの調整ボタンが配置されている。調整ボタンには文字や記号が記されており、指先で簡単に操作することができる。左から順に週（W）、曜日（D）、ムーンフェイズ（3日月）、月（M）、日付（C）の



《報道資料》 ページ 3

順序で永久カレンダーを調整できる。これらの調整ボタンを円弧上に配置するためには、中間車による複雑な機械的システムが必要であった。

エクスクルーシブな外装

新しいデスククロック 27000M-001モデルの外装に関しては、マニュファクチャールパテックフィリップは1923年の歴史的モデルの豊かな装飾からインスピレーションを得て、洗練され、時を超越したスタイルを新たに創作した。925シルバーのキャビネットは、手仕上げギョシェ装飾の渦巻模様を施した緑フランケ本七宝のパネルによって魅力を高められている。文字盤の場合と同様、これらのパネルは完全な平面性を保証するために裏面にも七宝が施されている。この技術は、パネルの大きなサイズと焼成の際に起る変形のため、きわめて困難である。銀の融点は金のそれよりも低く（980°Cに対して890°C）、七宝の焼成温度（800～900°C）に近いので、銀に七宝を施す複雑な技術をマスターしている七宝職人はごくわずかである。

上部パネルとベゼルには、彫金による《綱》のモチーフが施されている。底面の隅と12時位置にある3つのバラ形飾り、カラトラバ十字を縁取るアカンサスの葉、および4つのケース脚の翼を持つライオンなど、歴史的クロックから踏襲された装飾要素は、イエローゴールドのめっきを施したシルバーにより別付けされている。

今回現行コレクションに収められるのに先立ち、このデスククロックはユニークピースのプレビュー・バージョン（27001M-001モデル）が製作された。アメリカン・ウォールナットの化粧板により装飾されたこの作品は、パテックフィリップによって2021年オンリーウォッチ・チャリティーオークションに寄贈され、950万スイスフランで落札された。

新しいキャリバー 86-135 PEND S IRM Q SEに関する9件の技術特許

技術特許 1

ヒンジ付カバーの下に隠された、巻き上げと調整用の鍵をプッシュアップするシステム。

技術特許 2

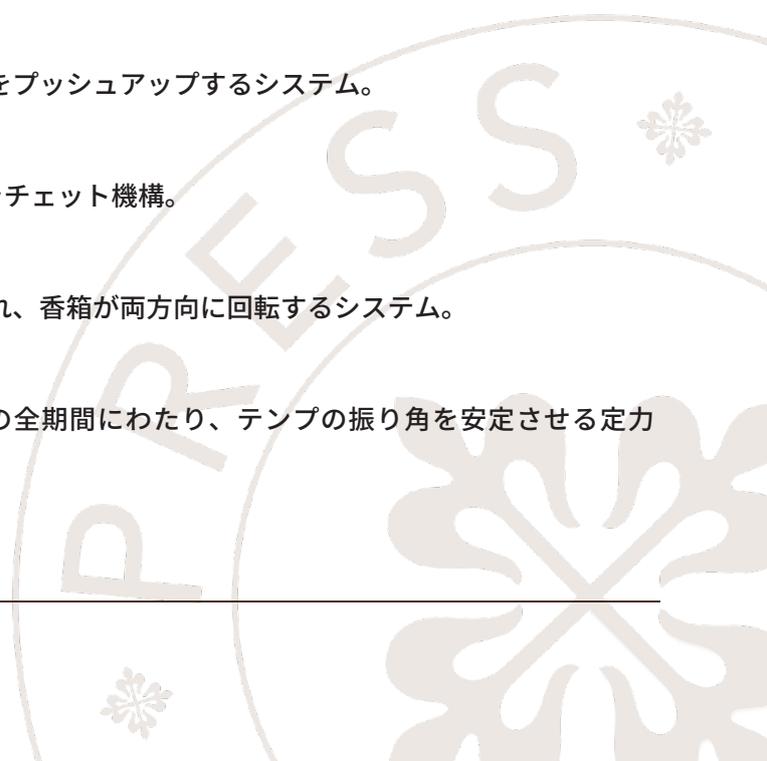
3つのぜんまいすべての完璧な回転と平面性を保証するラチェット機構。

技術特許 3

両端の香箱と反対方向に回転する中間の香箱から構成され、香箱が両方向に回転するシステム。

技術特許 4

ぜんまいがいっぱいになり巻き上げられてから最終日までの全期間にわたり、テンプの振り角を安定させる定力機構。





《報道資料》 ページ 4

技術特許 5

パワーリザーブ表示のストッパー、および輪列との接続に弾性を持たせることにより、パワーリザーブ表示がゼロに達してもムーブメントが駆動を続けることができるようにした機構。

技術特許 6

各月の1日から27日まで、メインレバーが作動していない間、エネルギーを節約するためにこのレバーの動きを制限する機構。

技術特許 7

永久カレンダーのエネルギー消費を削減する、最適化された停止爪。

技術特許 8

回転する窓表示の採用による週番号のダブルジャンプ抑制。

技術特許 9

毎月1日に補正機能を作動させることにより、表示の補正を適切な順序で行うことができる機構。隔離機構により、毎月1日以外の日では日付表示の調整機能が無効化されるため、カレンダーの同期が失われるのを回避できる。

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

広告・広報部 部長

大塚 和泉

電 話：03 - 5209 - 8018 (直通)

F A X：03 - 3256 - 7558

izumi@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03 - 3255 - 8109

パテック フィリップ ホームページ：<https://www.patek.com>





技術仕様

デスククロック27000M-001モデル

ムーブメント： キャリバー 86-135 PEND S IRM Q SE。
手巻ムーブメント。永久カレンダー。曜日、月、閏年、および昼夜を窓表示、日付を指針表示、ウィークリー・カレンダー、ムーンフェイズ表示。ジャンピング・セコンド。

サイズ： 135 x 86 mm
厚 さ： 28.55 mm
部品総数： 912個
石 数： 67石
連続駆動可能時間： 31日間
振動数： 28,800 振動 (片道) /時 (4 Hz)
テンプ： Gyromax®
髭ぜんまい： Spiromax® (Silinvar® 製)
髭持ち： 可動式

機 能：

- ・ヒンジ付カバーを開くプッシュボタン (4時位置)
- ・ぜんまいの巻き上げと調整用の鍵を収めたソケット (10～11時位置)
- ・鍵による時刻調整 (1時位置)
- ・鍵による巻き上げ (時計回り)(1～2時位置)
- ・鍵による時刻調整とストップ・セコンド機能のON/OFF (6時位置)
 - ・反時計回り：時刻調整 (1時位置の四角い軸による) とストップ・セコンド機能ON (秒・ムーブメント停止)
 - ・時計回り：時刻調整とストップ・セコンド機能OFF (秒・ムーブメント・リスタート)

表 示：

指 針

- ・サブダイヤルによる時・分表示 (12時位置)
- ・ジャンピング・セコンド (センター)
- ・パワーリザーブ表示 (センター)
- ・サブダイヤルによる日付表示 (6時位置)

表示窓

- ・曜日表示 (センター 9時位置)
- ・月表示 (センター 3時位置)
- ・ムーンフェイズ表示 (6時位置)
- ・昼夜表示 (7～8時位置)
- ・閏年サイクル表示 (4～5時位置)
- ・レッドの移動フレームによる現在の週番号表示 (文字盤外周)





《報道資料》 ページ 6

- 調整ボタン： コントロール・デスク（左から）
- ・週番号の調整（W）
 - ・曜日の調整（D）
 - ・ムーンフェイズの調整（3日月）
 - ・月・年の調整（M）
 - ・日付の調整（C）
- 刻 印： パテック フィリップ・シール
- 外 装
- キャビネット： 925シルバー仕様
- ・手仕上げギヨシェ装飾、緑七宝パネル（フランケ七宝）
 - ・金めっき装飾要素（ゴールドのめっきを施したシルバー）
 - ・アメリカン・ウォールナットの化粧板で装飾されたメカニカル・ダッシュボード
 - ・非防水（湿気・埃にのみ対処）
- 寸 法： ・縦 x 横：164.6 x 125 mm
- ・厚さ：76.3 mm
- 文字盤： ・シルバー・オパール文字盤、ブラック転写表示
- ・ブラック仕上げ18金ホワイトゴールドのペア型時・分針
 - ・ブラック仕上げ18金ホワイトゴールドのリーフ型日付表示針
 - ・ブラック仕上げPfinodal（高性能銅合金）の大型秒針
 - ・ブラック転写シュマン・ド・フェール（ルール）型分スケール（文字盤外周）
 - ・ブラック転写週番号表示（文字盤外周、1～53）

